



6 月 号

平成 31 年 6 月 25 日 郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

# 桜花爛漫

桜花爛漫・飛翔若鷹

ひとり歩きのできる子  
～つながる力を育む～

検索 庄川まちづくり協議会

## 校内でできることが、校外でもできる

校 長 水 口 悟

### 半夏生ず(夏至 末侯 はんげ しょうず)

半夏(からすびしゃく)が生えはじめるころ。田植えを終わらせる、農事の節目とされています。  
(新暦では、およそ七月一日～七月六日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

### ◇ ひとり歩きできる子の ‘学ぶ姿’

6月6日には、高山市内の小・中・高・特学校の生徒指導に関わる先生方(約50名)に、集まって頂く会議がありました。以前、本校に勤めた経験のある先生方も参加され、懐かしんだり、庄川の子どもの素晴らしさを改めて感じたりする機会となりました。会場校として準備をした私たち職員は、とても嬉しく、次に向かうエネルギーとなりました。感想の一部を紹介します。

学校内の掲示物や写真等がきれいに整備されており、郷土に誇りを持てるような落ち着いた風景でした。どの授業も一人ひとりに先生が寄り添い、丁寧に授業をされていました。ただ寄り添うだけではなく、事前の教材研究の成果も見られ、工夫された授業展開でした。ふるさと庄川の伝統を引継ぎ、庄川の未来を担う子どもたちの教育に力を注ぐ姿勢が、学校全体から伝わりました。(東山中学校)

会の始まりに、庄川小学校54名の歌声、表情に驚きと感動を頂きました。授業参観では、少人数のよさを強く感じました。例えば、先生と児童の距離感や気配り、何よりも児童の姿勢や表情が生き生きとしており、大変よい雰囲気でした。「小規模校の強み」を感じました。高山西高校、現在、庄川地区の出身の生徒5名が在籍しています。5人ともに目標を持ち、学校生活を前向きに取り組んでいます。(高山西高等学校)

庄川の子どもの姿は、当日のためだけに準備されてきたものではありません。日常の取組の延長線上にある姿です。一人一人の子どもたちが、主体的に貪欲に個性豊かに‘ひとり歩きできる’ように、日々繰り返し繰り返し、鍛えている指導の成果です。日常的にできることが、非日常(本番)にも発揮できる力の育成です。少人数のよさを活かし、一人一人を手厚く鍛え育んでいる教育の賜です。

### ◇ ひとり歩きできる子の ‘修学旅行・セカンドスクール’

「校内でできることが、校外でもできる力」・・・今年度は、先生方とそんな子どもたちの姿をめざして取り組んでいます。内に留まらない力です。将来に貫かれていく、広がっていく力です。その姿は、例えば、裏面の修学旅行の姿に現れています。5年生もセカンドスクールで、お互いに声を掛け合いよい研修にしていこうとする姿は、校内で見る5年生の姿と同じです。朝日小学校の5年生とも、よく声を掛け合い、新たな友達ができたことをとても喜んでいました。少人数で生活しているからこそ、新しい友達ができることへの新鮮感や達成感が深いのでしょうか。人と人のつながりの大切さを感じるのでしょうか。

### ◇ ひとり歩きできる子の ‘夏休み’

前期後期制が始まって2年目を向かえます。昨年度より、4シーズン制(春夏秋冬)を取り入れていきます。6月末で、シーズンⅠ(春:出会い・めあて)が終わり、7月よりシーズンⅡ(夏:挑戦Ⅰ)が始まります。夏休み始まりの個人懇談は、一部の学年を3者懇談会とする予定です。本人が、保護者と先生に「夏休みの計画」を伝え、やりきるよう挑戦できる夏休みにしたいと考えています。